

GPS/JIPS 安全性要約書

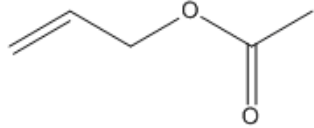
1. 物質名 (SUBSTANCE NAME)

酢酸アリル (CAS 番号 591-87-7)

2. 物質の概要 (GENERAL STATEMENT)

酢酸アリルは構造に不飽和結合をもつエステル類で、無色の液体です。引火性が高いため、取扱い時には防爆、静電気対策が必要です。この物質を飲み込みと有毒で、吸入により生命に危険のおそれがあります。また、皮膚や眼に対して刺激があります。長期にわたるばく露により、肝臓、リンパ系、骨髄に障害の可能性があります。そのため、換気対策のもと、適切な保護具を着用し、眼の保護、皮膚の保護、吸入の防止を図る必要があります。

3. 化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

| 項目 | 内容 |
|----------|---|
| 化学名又は一般名 | 酢酸アリル |
| 製品名 | 酢酸アリル |
| 別名 | アリルアセテート |
| CAS 番号 | 591-87-7 |
| その他の番号 | 官報公示整理番号 化審法:(2)-730 安衛法: 既存化学物質 |
| 化学式等 | CH ₃ COOCH ₂ CH=CH ₂ |
| 構造式 |  |
| 出典・備考 | 昭和電工株式会社発行の SDS 第 3 項 |

4. 使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

| | |
|------|-----------------------|
| 主な用途 | アリルアルコールの原料として利用されます。 |
|------|-----------------------|

5. 物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

酢酸アリルは常温常圧において無色透明の液体で、ラム酒のような臭いがあります。通常の手扱においては安定ですが、不飽和結合への付加反応、また、強い酸化剤と反応します。引火性があり、加熱により分解し、刺激のある臭いと煙が発生します。保管時には、直射日光を避け、換気の良い冷暗所で保管する必要があります。

| | |
|----------------|-----------------------|
| 外観 | 液体 |
| 色 | 無色透明 |
| 臭い | ラム酒類似臭 |
| 融点/沸点 | -89 °C / 103.5 °C |
| 引火点 | 6 °C (密閉式) |
| 可燃性 | 引火性の高い液体及び蒸気 |
| 爆発限界 (vol %) | 2.1 - 13.0 vol % |
| 自然発火点 | 374 °C |
| 蒸気圧 | 27.2 mm Hg (at 20 °C) |
| 相対蒸気密度 (20 °C) | 3.45 (空気=1) |
| 相対密度 | 0.928 |

| | |
|--------------------------|------------------------------------|
| 密度 | 0.9275 g/cm ³ (at 20°C) |
| 水への溶解度 | 2.8 % (at 20 °C) |
| n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow) | 0.97 |
| 出典・備考 | 昭和電工株式会社発行のSDS第9,10項 |

6. ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

| 危険有害性項目 | GHSによる分類結果および評価コメント |
|--|--|
| 急性毒性 (経口) | 区分3 飲み込むと有毒 |
| 急性毒性 (経皮) | 分類できない |
| 急性毒性(吸入:気体) | 区分に該当しない(非該当) |
| 急性毒性(吸入:蒸気) | 区分2 吸入すると生命に危険 |
| 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) | 分類できない |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 区分2 皮膚刺激 |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2A 強い眼刺激 |
| 呼吸器感受性 | 分類できない |
| 皮膚感受性 | 分類できない |
| 生殖細胞変異原性 | 分類できない |
| 発がん性 | 分類できない |
| 生殖毒性 | 分類できない |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 分類できない |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 区分2 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(肝臓、リンパ系、骨髄) |
| 誤えん有害性 | 分類できない |
| 出典・備考 | 昭和電工株式会社発行のSDS第2,11項 |
| <p>・GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 世界的に統一されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報をラベルで表示し、安全データシートを提供したりするシステムです。</p> <p>・区分に該当しない(非該当): GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっておりません。</p> <p>・区分に該当しない: GHS分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行った結果、GHSで規定するいずれの区分にも該当しないと考えられます。</p> <p>・分類できない: 分類を確定するための十分に信頼性のあるデータがなく、分類できません。</p> | |

7. 環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

| 危険有害性項目 | GHSによる分類結果および評価コメント |
|----------------|----------------------|
| 水生環境有害性 短期(急性) | 分類できない |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | 分類できない |
| オゾン層への有害性 | 分類できない |
| 出典・備考 | 昭和電工株式会社発行のSDS第2,12項 |

| 環境中の運命・動態 | |
|-------------|--|
| 土壌中の移動性 | Koc = 80 |
| 残留性・分解性 | (アセテート類) 生分解しやすい |
| 生体蓄積性 | LogPow = 0.97 BCF = 3.2 生体蓄積性は低いと考えられます |
| PBT/vPvBの結論 | PBT(環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する)、vPvB(環境中に非常に残留し、非常に高い生物蓄積性を有する)には該当しないと考えられます。 |
| 出典・備考 | 昭和電工株式会社発行のSDS第12項 |

8. ばく露 (EXPOSURE)

| 詳細 | ばく露の可能性 |
|--------|---|
| 作業者ばく露 | 当社の製造は十分にばく露見込みのない管理された閉鎖系・連続プロセスで製造しており、ばく露の可能性は極めて低いです。 ばく露は製造設備、および当該物質を使用する様々な産業設備で発生する可能性があります。常温での取扱い作業において、混合／混和、計量、梱包、解梱等に伴う作業者への経口・経皮・吸入ばく露の可能性がります。バッチおよびその他のプロセスでの作業において、メンテナンス、サンプリング、充填、排出および装置故障の際等に、作業者への経口・経皮・吸入ばく露の可能性がります。 |
| 消費者ばく露 | 本製品は、一般消費者にて直接使用されることはほぼありません。 |
| 環境ばく露 | 産業における物質の製造工程、調剤の調合工程から、主に大気及び水環境へ放出される可能性があります。 |
| 注意事項 | 他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施して下さい。 |

9. 推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

推奨するリスク管理措置により、8項のばく露シナリオによる作業者、消費者および環境に対するリスクは、最小化可能と考えられます。

| 詳細 | 推奨するリスク管理措置 |
|-----|---|
| 作業者 | 技術的対策： 本製品の取扱いにおいては、できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用し、保護具を着用して下さい。防爆型の電気機器、換気装置および照明機器を使用し、静電気放電に対する予防措置を講じて下さい。取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置して下さい。 |
| | 局所排気・全体換気： 本製品は、局所排気装置の使用下、または全体換気のある場所で取扱して下さい。 |
| | 許容濃度： 設定されていません。 |
| | 保護具： 作業の際は、呼吸用保護具（認可を受けた有機ガス用防毒マスク、送気マスク、自給式呼吸器）、および皮膚への接触を避けるため耐薬品性のあるゴム製手袋を着用して下さい。ニトリルゴム及び塩ビは適切な保護材料ではありません。ネオプレンが推奨されます。眼への刺激を避けるため安全メガネ、状況に応じて化学用ゴーグル又は顔面保護具を使用して下さい。使用条件に応じて、耐薬品性の保護衣、エプロン、長靴、頭部保護具を着用して下さい。 保護具例 認可を受けた有機ガス用防毒マスク。 認可を受けた送気マスク。 認可を受けた自給式呼吸器。 |
| | 注意事項： 作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をして下さい。 |
| 消費者 | 当社製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。 |

| | |
|-----------------|--|
| 環境 | 適切な排水処理施設や排ガス処理施設を設置する。また、漏洩防止策を講じ、定期的な排出量の確認、日常管理、取扱いに注意を払って下さい。 |
| 記事項(漏出時の緊急措置など) | <p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 風上から作業し、風下の人を避難させて下さい。 大規模漏出の場合、直ちに周囲の人を避難させ、エリアを換気して下さい。漏出場所の周辺に標識を設けて区画し、関係者以外の立ち入りを禁止して下さい。 着火源となるものを速やかに取り除いて下さい。 着火した場合に備えて、適切な消火剤(炭酸ガス、耐アルコール泡消火薬剤、粉末消火剤)を準備して下さい。 作業の際には、適切な保護衣、手袋、眼及び顔面用保護具を着用し、状況に応じて呼吸用保護具を着用して下さい。</p> <p>環境に対する注意事項： 漏出した製品の流出を防ぎ封じ込めて下さい。流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないようにして下さい。封じ込めの方法は、少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉可能な不燃性の空容器に回収して下さい。大量の場合、土砂などでその流れを止め安全な場所に導き、密閉可能な不燃性の空容器にできるだけ回収し、そのあとを大量の水で洗い流して下さい。 二次災害防止のため、火花の出ない工具の使用、静電気発生の防止を行って下さい。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖箇所への流入を防いで下さい。</p> |
| 注意事項 | 通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、昭和電工(株)発行のSDSの4,5,6,7,8,13,14項を参照して下さい。 |

10. 政府機関のレビュー状況 (STATE AGENCY REVIEW)

| 国際機関、各国当局によるレビュー | |
|------------------------------------|---|
| IPCS (国際化学物質安全性計画) | 国際化学物質安全性カード 情報なし |
| OECD (経済協力開発機構) | 高生産量化学物質(HPV chemicals)点検計画 情報なし |
| NITE-CHRIP (NITE化学物質総合情報提供システム) | https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/srhInput |
| 政府によるGHS分類結果 | https://www.nite.go.jp/chem/ghs/09-mhlw-0110.html |

11. 法規制情報/GHS分類情報・ラベル情報 (REGULATORY INFORMATION/GHS CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)

法規制情報

| 適用法令 | 規制状況 |
|-----------|--|
| 労働安全衛生法 | 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号) |
| 毒物及び劇物取締法 | 通知対象物質ではありません |
| 消防法 | 第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類) |
| 船舶安全法 | 引火性液体類(危規則第3条危険物告示別表第1) |
| 航空法 | 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1) |

| | |
|----------------------|--|
| 港則法 | その他の危険物・引火性液体類(法第20条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表) |
| 道路法 | 車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2) |
| 特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法) | 特定有害廃棄物(法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12号) |
| 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) | 通知対象物質ではありません |
| 国連分類 | 3 |
| 国連番号 | UN2333 ALLYL ACETATE |

| GHS 分類情報 | |
|----------|------------------------------------|
| 物理化学的危険性 | 引火性液体 区分 2 |
| | 自己反応性化学品 タイプ G |
| 健康有害性 | 急性毒性(経口) 区分 3 |
| | 急性毒性(吸入:蒸気) 区分 2 |
| | 皮膚腐食性/刺激性 区分 2 |
| | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 2A |
| | 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分 2(肝臓, リンパ系, 骨髄) |

| ラベル情報 | |
|-----------|---|
| 絵表示又はシンボル |  |
| 注意喚起語 | 危険 |
| 危険有害性情報 | 引火性の高い液体及び蒸気 (H225) 飲み込むと有毒 (H301) 皮膚刺激 (H315) 強い眼刺激 (H319) 吸入すると生命に危険 (H330) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (肝臓、リンパ系、骨髄) (H373) |

12. 連絡先 (CONTACT INFORMATION)

会社名 昭和電工 株式会社
 住所 東京都千代田区丸の内一丁目9-2
 担当部門 石油化学事業部 有機化学品部
 電話番号 / ファックス番号 03-5470-3604 / 03-5533-7922

13. 発行・改訂日、その他の情報

(DATE OF ISSUE / REVISION, ADDITIONAL INFORMATION)

発行日: 2022年12月28日

改訂:

| 改訂日 | 改訂項目 | 改訂箇所 | 版 |
|-----|------|------|---|
|-----|------|------|---|

記載の情報は、2021年12月1日改訂版の安全データシート(SDS)に基づいています。

14. 免責条項 (DISCLAIMER)

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS/JIPS: Japan Initiative of Product Stewardship)の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象品に関する

安全な取扱いに関する情報を概要として提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を提供するものではありません。また、安全データシート(SDS)や化学品安全性報告書(CSR)などのリスク評価に代わる文書として作成されたものではありません。本安全性要約書は、発行時点で入手可能な法令、資料、情報等のデータに基づいて、できる限り正確な記載に努めておりますが、すべてのデータを網羅したわけではありません。また、いかなる保証をするものでもありません。